

2021 年女子体操代表選手選考方法

2021 年 4 月 4 日

(公財)日本体操協会体操女子強化本部

<2020 年東京オリンピック日本代表選考方法>

「チーム枠4名の選出」 ※2020 東京五輪種目別宣言者(種)は廃止

個人総合得点上位者 【3名】
① <u>代表選考会による選出</u> 全日本個人総合(予選・決勝)、NHK 杯の 3 試合個人総合合計得点から上位 3 名を選出する。

チーム貢献度による選出者 【1名】
② <u>女子強化本部長による推薦</u> 2020 東京五輪に関わる全ての予選会の成績を参考にして、チーム貢献度が最も高いと判断した選手 1 名を推薦する。
③ <u>チーム貢献度の算出による選出</u> ②に該当者がいない場合は、全日本個人総合(予選・決勝)と NHK 杯の 3 試合個人総合合計得点上位 8 名(日本代表選考の年齢等による資格を満たさない選手を除く)までの選手の中から、①で選出された 3 選手との組み合わせで算出されたチーム得点が最も高くなる選手を選出する。ただし、2 種目以上でチーム得点に貢献する事を条件とする。
④ ③の該当者がいない場合は、3 試合個人総合合計得点による選出者の次点とする。

<補足>

上記③のチーム貢献度を判定するために採用する得点は以下の通りとする。

- (1) 跳馬は 1 本目の跳躍の得点とする。
- (2) ①で選出された 3 選手の得点は、全日本個人総合(予選・決勝)および NHK 杯の各種目の最高得点とする。
- (3) チーム貢献度を判定される選手の得点は、全日本個人総合(予選・決勝)、NHK 杯の 3 試合のうち、各種目の最も高い 2 試合の得点の平均とする。

<タイブレークルール>

全日本個人総合(予選・決勝)、NHK 杯の 3 大会の個人総合合計得点が同点の場合、以下の手順で序列を決定する。

- (1) NHK 杯 1 日のみの個人総合得点の最上位者を上位とする。
- (2) FIG タイブレークに準ずる。(NHK 杯の種目最低点を除く 3 種目の合計得点が高い選手を上位とする。)

[個人枠(2名以内)の選出]

種目別 W 杯ランキング最上位者【1名以内】

- ⑤ 2018-2020 種目別 W 杯シリーズ(8 大会)において、2020 東京五輪出場個人枠を獲得した選手がいた場合、当該選手を選出する。

国枠の選出者【1名以内】

- ⑥ 派遣標準得点(2019 年世界選手権種目別決勝 4 位の得点)に達した選手の選出
2021 アジア選手権において国枠を獲得した場合、アジア選手権(予選・決勝)、全日本種目別(予選・決勝)の 4 試合のうち、各種目の最も高い 2 試合の得点の平均が派遣標準得点に達した選手がいた場合、当該選手を選出する。
【派遣標準得点:跳馬(14.733)、段違い平行棒(14.733)、平均台(14.000)、ゆか(13.966)】
- ⑦ ⑥の該当者がいない場合は、3 大会個人総合合計得点による選出者の次点とする。

<補足>

上記⑥の選出に関して以下の補足をする。

- (1) 跳馬は 2 本の跳躍の平均で、さらに上位 2 大会の得点の平均とする。
- (2) 複数種目の合計による算出は行わない。

<タイブレークルール>

上記⑥による選出者が複数となった場合は、以下の手順で序列を決定する。

- (1) 2019 世界選手権種目別決勝 3 位の得点(以下、3 位得点)を最も上回る得点を獲得した選手を選出する。
- (2) 3 位得点を上回る選手がいない場合は、3 位得点に最も近い選手を選出する。
【3 位得点:跳馬(14.816)、段違い平行棒(14.800)、平均台(14.300)、ゆか(14.066)】
- (3) 同点の場合は、全日本個人総合(予選・決勝)、NHK 杯の 3 大会の個人総合合計得点の高い選手を上位とする。さらに個人総合合計得点が同点の場合は、全日本個人総合決勝と NHK 杯の 2 大会の合計得点、NHK 杯(4 種目)の得点、全日本個人総合決勝の得点、全日本個人総合予選の得点の順に上位者とする。
- (4) 全日本種目別において、複数の映像申請者が派遣標準得点に達して同点の場合は、E スコアが高い選手を上位とする。

[国内補欠の選出]

- 1 チーム枠の補欠は、チーム枠で選出された各選手がそれぞれ交代する場合を想定して、チーム貢献度によって若干名を選出する。
- 2 個人枠の補欠は、⑥⑦による選出者の次点とする。

<2021 年アジア選手権>

第 75 回全日本体操個人総合選手権(予選・決勝)+第 60 回 NHK 杯の上位 4 名(2019 世界選手権出場選手は 1 名のみ)とする。

※国枠獲得のため上位 4 名で個人総合を行う

※アジア選手権代表選手は JOC 強化指定選手として認定し、アスリートトラックの申請を行う。

<2021年ワールドユニバーシティゲームズ大会>※2022年以降に延期

第75回全日本体操個人総合選手権(予選・決勝)＋第60回NHK杯の対象者上位5名

ワールドユニバーシティゲームズ大会枠での第75回全日本体操個人総合選手権有資格者は、東京五輪、北九州世界選手権の選考対象とはしない。個人総合予選で24位以内に入った場合は、個人総合決勝、NHK杯に出場することはできる。しかし、24位以内に入れなかった場合に、種目別において派遣標準得点に達しても個人総合決勝、NHK杯に出場する権利は得られない。また、個人総合予選、決勝、NHK杯において各種目の8位以内に入っても全日本種目別予選に出場する権利は得られない。

<2021年北九州世界選手権大会>

2021年北九州世界選手権大会選考基準	
①	2020東京五輪個人総合メダリスト・種目別メダリスト(各種目日本選手最上位者1名)を世界選手権代表選手として決定する。
②	全日本個人総合(予選・決勝)、NHK杯のいずれかで個人総合派遣標準得点に達した選手と①の個人総合メダリストを含め最大2名選出する。該当する選手がいない場合は、NHK杯から最上位者1名を選出する。 【派遣標準得点:個人総合(55.632)】2019世界選手権決勝8位得点
③	全日本個人総合(予選・決勝)、NHK杯、全日本種目別(予選・決勝)の5試合のうち、各種目の最も高い2試合の得点の平均が派遣標準得点に達した選手と①の種目別メダリストを含め最大3名を選出する。該当する選手が1名の場合は、派遣標準得点に最も近い選手を1名選出する。該当する選手がいない場合は、派遣標準得点に最も近い選手を2名選出する。ただし、個人総合枠が2名の場合は各種目1名、個人総合枠が1名の場合は各種目最大2名を選出とする。※各種目のエントリーが3名までのため 【派遣標準得点:跳馬(14.733)、段違い平行棒(14.733)、平均台(14.000)、ゆか(13.966)】2019世界選手権4位得点
④	個人総合枠が1名の場合、個人総合枠はNHK杯③の次点者1名を選出する。
⑤	補欠は③④の次点者とする。※交代の期限は大会開始の4週間前とする。

<補足>

※世界選手権候補選手を全日本個人総合(予選・決勝)、NHK杯、全日本種目別(予選・決勝)の5試合から4名選出する。候補選手は、2020東京五輪の体操競技大会終了時までとする。

※跳馬は2本の跳躍の平均で、さらに上位2大会の得点の平均とする。

※全日本個人総合(予選)で24位以内に入らなかった選手が、派遣標準得点に達した場合、その種目のみを全日本個人総合(決勝)、NHK杯にて行うことができる。ただし、各種目4名を上限とする。

※選考競技会で権利を獲得した種目のエントリーを優先する。各種目3名に満たない種目及び④で選出された選手の出場種目エントリーは代表合宿試技会にて決定する。

<2021年度ナショナル強化選手選出方法>

- 2020東京五輪・第50回世界選手権代表選手
- NHK杯個人総合上位12名(2020東京五輪・第50回世界選手権代表を含む)
- 協会推薦選手若干名(1名～3名)